

じんぼ まさし
神保 政史

年初に思うこと…

●電機連合・書記長

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

皆様におかれましては、ご家族やご友人と健やかなお正月を過ごされたことと思います。

最近ではお正月らしさが薄れてきているように感じますが、やはり年の初めは晴れやかな気持ちになりますし、昨年を振り返りながら今年こそはと心新たに目標を掲げられた方も多いのではないのでしょうか。

目標にはプライベートのものから、仕事のこと、家族のことなど人によって様々です。私も毎年正月休みに目標を掲げるのですが、なかなか実行に移す時間がなく、日が経つにつれて目標を掲げたときの気持ちが薄れ、いつも反省しきりで年末を迎えてしまいます。

そもそも、日本人の労働時間は減少傾向にあるとはいえ欧米諸国と比較すると長時間の傾向にあります。加えて、都市部では通勤時間が長いことや商習慣など特有の事情も重なり、家族と過ごす時間や趣味や自己啓発など自由に過ごせる時間が少ないのが実情です。

このように私たちの生活の多くを占める労働時間ですが、8時間労働が導入された歴史は古く大正8年（1919年）だそうです。神戸の大手企業が、当時の日本では当たり前だった10時間労働から、賃金を変えずに8時間労働に改定したのが始まりとされています。その神戸に記念碑があり、記念碑を制作した方が次の一文を寄せられました。

「(人間は太陽の活動から)一日という単

位を得て、労働の昼と、労働の禁じられる夜の(二つの時間)に生きてきた。しかし、人間は祈ること、想像すること、瞑想することなどの精神活動のために時間をつくり出し、一日を二分から三分することで人間らしい時間性を得て、『文化』は形成され始めたといえよう。生産をもたらす労働の時間、創造のための余暇の時間、そして無に帰る就寝の時間の三つによる区分である。その三項が一日を等分することで、人間の精神と肉体の均整が守られ、それは人間にとって最も自然な時間のあり方である」。

意味深い一文です。この碑が作られてから長い年月がたち、時代とともに生活スタイルや労働環境も大きく変化しましたが、「生産をもたらす労働の時間」「創造のための余暇の時間」「無に帰る就寝の時間」のバランスを取ることは、今でいえばワークライフバランスの考えに通ずるものがあります。

今、私たちは「精神と肉体の均整」が守られるような生活をおくれているのだろうか考えさせられます。

電機連合では毎年、生活実態や労働時間に関する調査を実施し、実態を把握し活動に反映しています。直近の労働時間に関する調査では、2015年度の総労働時間が3年連続して2000時間を超え、2010年から5年間で約40時間増加となりました。

また、生活実態調査によると総労働時間が「非常に長い」「長い」と感じている人は



49.7%と、約半数を占めています。勤務形態別にみると「裁量労働者」においては7割弱の方が「長い」と評価しています。また、年次有給休暇の平均取得日数は14.0日となっています。

長時間労働の要因は、人員構成の変化、人手不足、製品サイクルの短期化などが考えられ、労使で働き方や業務効率化の対策を強化しているものの、調査結果を見ますと残念ながら施策が成果に結びついていないといえます。

また労働時間が長く仕事と生活のバランスが取れていない方は、今の働き方が続くと心身の健康が維持できないと感じている方の割合が高いことに加え、仕事へのやりがい・モチベーションがバランスの取れている方より低い傾向にあります。

長時間労働は心身の健康維持や育児や介護との両立など誰もが働き続けられる環境整備を阻害する大きな要因になっています。また、モチベーションの低下を招き、個人にとっても、企業にとっても成長を妨げる要因でもあり、早急に解決しなくてはならない喫緊の課題といえます。

私たちは一日の多くの時間を働くことに費やしています。働くことで生活の糧を得て、社会とつながり、仕事を通じて自己成長を果たすものです。しかしながら、それは「精神と肉体の均整」が守られていることが基盤になくはなりません。

そのためには、家族と過ごす時間や自分を磨く時間といった「創造のための余暇の時間」と、心身を休め健康を維持するための「無に帰る就寝の時間」をもっと作り出さなくてはなりません。

長時間労働是正に向けては、国としても働き方改革に乗り出し様々な動きが出てきていますし、当然、労使でもこれまで以上に取組みを強化しなくてはなりません。その上で、私たち一人ひとりもいかに時間をバランスよく管理するのかを考えなくてはなりません。意外にも多忙な人ほど自己研鑽に余念がなく、趣味が多く、魅力的な方が多いものです。恐らく何事にも目標を明確に持っているからこそ、時間をつくり出すことが上手く、「生産をもたらす労働の時間、創造のための余暇の時間、そして無に帰る就寝の時間」をバランスよく管理し、何事にもモチベーション高く取り組んでいるのでしょう。

多忙な毎日の中で、時間を有効に活用することは難しい課題ではありますが、「人間にとって最も自然な時間」を作り上げたいものです。

2017年は酉年です。鶏は人に時を報せる動物です。2017年が労働の時間・余暇の時間・休息の時間の適正な「時」の報せが一人ひとりに届く年にしたいものです。